

今こそ、ベトナム! 国際体験みらい塾

現地調査アンケート ※アンケート対象：現地に行かれた徳山大学在籍の学生及びJCメンバー

I：相手国の長所調査

A:相手国の良い部分、尊敬する部分あげてください。また、その理由も教えてください。

・相手国の良い部分、尊敬する部分(大学生の意見)	
①活気がある！	
②可能性を持った若い人材。	
③日本人に近い勤勉さを持っている点。	
④貪欲さ	
・理由	
①その日暮らしの人が多いからこそ「京は昨日より良くしよう」というふうに感じられました。	
②今のベトナムでは、ごく一部の人しかレベルの高い教育を受けていないと思う。だが、これから発展していく中で、多くの若者が学習をすることで、様々な分野で強力な戦力になると思います。	
③労働に見合う対価があれば、まじめに仕事を行うという話を聞いたため。また、能力のある人材が多いという点もベトナムの良い点だと思う。	
④収入や学習に対する貪欲の中で、自分に対してプラスになることはどんどん取り込んでいく姿勢は見習うべきと感じました。	

・相手国の良い部分、尊敬する部分(JCメンバーの意見)	
①団結力がある	
②他の国の言葉をしっかりと勉強している若者が大勢いる。	
③優しくも強い！	
④これからの国の発展に期待できる。	
・理由	
①私たちは訪問する所に担当者が必ず来ていて、企業誘致に積極的だった。	
②日本語を話す人にいつから勉強しているかを聞くと大体1～2年での短い期間でしっかりと勉強していることに感心した。	
③ベトナム戦争において民主主義と社会主義が闘い大国アメリカをも追い出した歴史上の強さの中にも日本人に似たおもてなしや優しさ謙虚さを感じられました。	
④人口統計でみても日本の1970年代と同じ構成で日本という高度経済成長にさしかかり、急激な国の成長を実感できる。	

II：相互発展調査

A:あなたの国(日本もしくはまち)がさらに発展するため、取り入れたいベトナムの良い点はどこですか。

・大学生の意見	
①学習に対する貪欲さ	
②日本の発展のために取り入れたいのは若い人材で、これからの日本社会の発展のために必要となってくると感じました。	
③私たちと同じくらいの現地の学生は2カ国以上の言葉が話せて、グローバルなところは必要と感じました。	
④人々人とのコミュニケーションの大切さ、今の日本ハゲームや携帯電話などといった遊ぶものが多くあり、人とのかわりが少なくなっているし国と国とのコミュニケーションが多くなれば日本は良い国になると思う。	
⑤勉強が出来ることを当たり前と思わないこと。他国では勉強が出来ない子供たちが多くいるにも関わらず学ぶことを嫌がるのは良くないと思うし、やるだけではなく、率先して学ぶように変える事が大事と感じました。	

・JCメンバーの意見	
①人口の若返り	
②国や州、県をあげての政策。国が豊かになる為にとる策	
③若者が夢をもって物事に取り組む姿勢	
④変わっていくこと。1,2年でまったく周りがベトナムでは、発展をみんなが実感して前向きに取り組んでいることを感じた。	
⑤発展のイメージが持ちやすい。日本だと多様化が進みどんな発展となるかイメージが難しく感じるが、ベトナムだと都会と田舎だけでも大きく違っていて身近に目標があり、イメージがしやすいのではと感じた。	
⑥海外企業の誘致が積極的な点。	

B:お互いの国が発展するために、協力できることはありますか。

・大学生の意見	
①日本にはしっかりと勉強の環境があるのでそれをもっと他国に広げる事が日本とベトナムをしっかりと繋げるし、それ以上にふれあいが良くなる。	
②福祉では、ベトナムは研修を兼ねて日本で福祉のノウハウを学び、日本はベトナムでの福祉事業を拡大、「福祉」の必要性を広げていけると思う。	

・JCメンバーの意見	
①ベトナムが親日であることをもっとPRし、両国で連携し留学生制度の充実化を図る。	
②技術を伝える。技術が根づくことで、もっと付加価値の高い日本企業を進出できる。	
③私たちが感じた、まだまだという所等を改善してもらう事で、日本企業が進出したり、観光者が快適に観光できる環境をつくる。	

III：本事業に対する所見

・徳山大学・学長所見	
これまでの比較的遠い存在だった外国・ベトナムに対し、現地を見、現地の学生やそこで働く日本人の方々と触れ合う体験を通して、興味を感じ、新たな学びへのモチベーションとなった様子が、学生諸君のレポートから伝わってきます。自らの体験を通して自分に足らなかったもの、学ぶべき課題を発見し、その解決に向けた新たな学びを進めていくのが、現在、本学が進める教育改革のキーワード「アクティブラーニング」に他なりません。今回の貴重な体験と、そこから得た新鮮な感動を糧として、今後の学生生活、社会生活を有意義なものにしてほしいと思います。また、参加した全学生の感想から伝わってくる、貴重な体験を与えてくださったJCの方々への感謝の意を、私からも表しておきたいと思います。	
学校法人徳山教育財団 徳山大学・学長	岡野啓介

・国際委員会委員長所見	
今の日本の若者には「閉塞感」が充満しています。高度経済成長が終わってから育った彼らには、これから社会がよくなるという実感がなかなか持てずにいるからです。また、将来に向けて真面目に頑張ろうと考えていても、その気持ちを発揮する場が無いと感じているからです。	
そこで、新興国であるベトナムで、将来を見据えて先行投資をしている日本企業の姿を見て自分の可能性を考えてほしい。そして、他国の同世代と接する中で、学生のうちに何をやらなければならないかを考えて行動する学生になってもらいたい。また、言語が通じない中でコミュニケーションをとらなければならない状況に自ら飛び込むことで、同様の経験をしている留学生などに対して思いやりの心を持って接することを考えてほしい。	
このような気持ちからスタートした「国際体験みらい塾」ですが、ベトナムを経験した学生たちが何を見て、どう感じ、どう変わったのか。この展示を通して皆様に少しでも伝われば幸いです。	
公益社団法人 周南青年会議所国際委員会・委員長	原田亮平